

第3版まえがき

本書の第3版には新規の2つの章があり、それぞれ英語が第一言語（L1）の場合と第二言語（L2）の場合の音声と音韻の習得を扱っている。

L1についての章は、筆者がフランスのモンペリエ第III大学の英語学科で18年間教えてきた児童言語の授業の一部に基づいている。

L2についての章は同大学での語学実習室での授業における筆者の経験に基づいている。この授業では学生の圧倒的多数がフランス人であったが、アラビア語、デンマーク語、ドイツ語、ギリシャ語、イタリア語、スペイン語の話者も含まれていた。当然の結果としてフランス語母語話者について論じている比重が大きいのではあるが、一般的な問題はすべての英語非母語話者に共通なのである。

いかなる質問または訂正、あるいはその両方はphilcarrb@yahoo.comにどうぞ。

2018年 12月、スコットランド ピーブルズにて

1

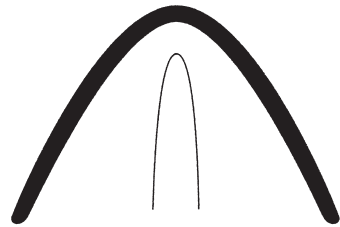
英語音声学：子音(i)

1.1 気流と調音

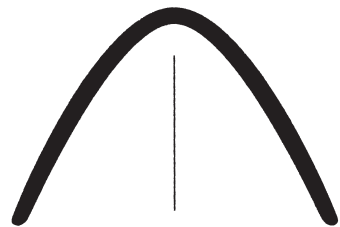
言語音は気流に変更を加えることによって作られる。本書でいう気流とは、肺から口腔(oral cavity)および鼻腔(nasal cavity)を通して出ていく呼気の流れを意味している(図1, p○○を参照)。気流が変更を受ける可能性のある箇所は数多くあり、また変更方式(すなわち、なんらかの狭めを受ける)にも何通りかがあり得る。呼気が肺から出てきて、流れが変更され得る最初の箇所は喉頭(larynx)であり(喉頭の前部、つまりのどぼとけは、喉の前の方にやや突き出しているのを触れることができる：図1を参照)、喉頭には声帯(vocal folds または vocal cords)が位置している。声帯は開いていることがあり、そのような場合、気流は妨害を受けずにここを通過する。声帯が開いているのを上から見ると、図のようになっている。

両方の声帯が合わさって閉じることがあり、そのようなときには、肺からの呼気の流れはその間を通過することができない。

流出しようとする呼気の流れに変更が加えられる1つのやり方は、声帯を縦に閉じるのにかろうじて十分なだけの、ある一定のレベルの筋肉の圧力を加え続けることによるものである。この閉鎖の下方に蓄積される呼気の圧力が高まると、筋肉の圧力の度合いに対して、閉鎖を押し開けることができるのに十分なほど強



開いた声帯



閉じた声帯

くなる。次に、閉鎖が開かれた後は呼気の圧力が急に落ちて、声帯は筋肉の圧力によって再び閉じられる。これが非常な速さで繰り返されると声帯振動が生じるのである。指を喉頭に当てて hazy の ⟨z⟩ の文字で表されている音を出してみればこの振動を感じることができるはずである（おそらく頭の中のどこでもこの振動を感じることだろうが）。この声帯振動を伴って発音される音を**有声音** (voiced sound) と呼び、このような振動なしで発音される音を**無声音** (voiceless sound) と呼ぶ。

言語音を表記するために、音声学者たちは国際音声字母 (IPA 記号: 図 2, p.00 を参照) を用いており、hazy の ⟨z⟩ の文字で表されている音を示す IPA 記号は [z] である。喉頭に指を当てて [z]、つぎに [s] (miss のような語の)、さらにもう一度 [z] を発音してみれば、振動の存在を感じることができる。すなわち [z] は有聲であり、[s] は無聲なのである。この区別は言語音の子音を記述する際の 3 つの要素 (パラメーター) の最初の 1 つである。したがって、どのような子音に対しても、本書ではそれが有聲であるか無聲であるかを述べていくこととする。

1.2 調音の位置

気流に変更を加えることのできる箇所を調音の位置 (place of articulation) と呼ぶことにする。今、本書では声帯を 1 つの調音の位置として確認した。声帯と声帯の間の空間は声門 (glottis) と呼ばれるので、この位置で調音される音を**声門音** (glottal sound) と呼ぶことにする。ほかにも多くの調音の位置が存在するが、ここではさらに 7 つの調音の位置を明らかにしよう。

まず最初に、下唇と上唇の間に狭めを生じさせることによって気流が変更を受けるような音は**両唇音** (bilabial sound) と呼ばれる。pit の最初の音がその例である。

まず最初に、下唇と上唇の間に狭めを生じさせることによって気流が変更を受けるような音は**両唇音** (bilabial sound) と呼ばれる。pit の最初の音がその例である。

第二に、下唇と上の歯の間で狭めを生じさせるような音は**唇歯音** (labio-dental sound) と呼ばれる。fit の最初の音がその例である。



両唇音: pit の最初の音

11

書記音素論： つづり字と発音の関係

11.1 序 論

英語のつづり字と発音の関係は複雑で、まったく恣意的であるかのように思われるかもしれない。この複雑さには歴史的な原因がある。つまり、ノルマン人のイングランド征服のあとで写本筆記者たちによってもたらされた変化や、外国語つづりの多数の外来語の借用、そして何よりも、古英語から中英語、初期近代英語を経て現代英語に至る間に英語の音韻体系が変化したことによるのである。複雑ではあるものの、とりわけ英語の非母語話者にとっては覚えるだけの価値のあるような、一定の基本的規則性が存在する。

まず、文字と書記素の区別から始めよう。ローマ字は26文字だが、英語の音素と異音を表す視覚的な記号(書記素(grapheme))は26より多い。これはある音素、あるいは異音を示すために組合せ文字が使われることがあるためである。たとえば〈ph〉は音素 /f/ に対応し(例: photograph)、〈th〉は音素 /θ/ (例: think) と /ð/ (例: this) の両方に、そして〈oa〉(例: boat) は RP と GA の音素 /ou/, SSE(標準スコットランド英語)の音素 /o/ に対応している。このような書記素は2つの文字からなっているので二重字(digraph)と呼び、schmalzty(過度に感情的な)の〈sch〉のように3文字からなるものを三重字(trigraph)と呼ぶことにする。文字と書記素の区別は、英語とフランス語の書きことばの慣習の違いに見ることができる。たとえば筆者の名前(Philip)のイニシャルを書くのに、英語では最初の文字を使って‘P. Carr’と書き、フランス語では最初の書記素を使って‘Ph. Carr’と書くのが慣習である。書記音素論(graphophonemics)という用語は書記素と音素(およびいくつかの異音)の関係についての学問につけられた名称である。本書ではまず英語の母音の書記素を検討することから始めて、子音の書記素に進んでいくことにしよう。

11.2 母音書記素とその音素的音価

11.2.1 1文字の母音書記素

まず ⟨a⟩, ⟨e⟩, ⟨i⟩, ⟨o⟩, ⟨u⟩ の5つの母音書記素から始めよう。これらを2つの異なる音素的音価、すなわち抑止母音としての音価と開放母音としての音価に区別することにする。抑止 (checked) と開放 (free) という用語は、音節構造に関する歴史上の事実から来ている。bite という語を例にとってみよう。中英語では、この語は /bi:tə/ と2音節語で、第一音節は /bi:/, 第二音節は /tə/ であった。どちらの音節も開音節で、尾部子音は含んでいない。われわれが開放母音の音価と呼んでいるものは、歴史的には開音節から来ている。中英語の bit という語は /bit/ と発音され、閉音節の単音節語で尾部子音 /t/ を含んでいた。われわれが抑止母音の音価と呼んでいるものは閉音節に由来している。現代英語では bite は語末のシュワーを失って今では単音節語であることに注目しなさい。しかしこの語は開放母音の音価、すなわち長い母音 /i:/ の歴史上の子孫である /aɪ/ を保持している。bit という語は抑止母音の音価、すなわち短母音 /ɪ/ の歴史上の子孫である /ɪ/ を保持している。

これから検討するような単音節語では、以下のとおり抑止母音の音価と開放母音の音価を1つずつ有する書記素が4つあり、⟨u⟩ は抑止母音の音価と開放母音の音価を2つずつ有している(例は RP より)。

| (1) | 開放母音 | 例 | 抑止母音 | 例 | |
|-----|------|----------------|------------|-------------|----------|
| | ⟨a⟩ | /eɪ/ | made | /æ/ | mad |
| | ⟨e⟩ | /i:/ | Pete | /ɛ/ | pet |
| | ⟨i⟩ | /aɪ/ | hide | /ɪ/ | hid |
| | ⟨o⟩ | /ou/ | note | /ɒ/ | not |
| | ⟨u⟩ | /ju:/ または /u:/ | cute, rule | /ʌ/ または /ʊ/ | cut, put |

語末の ⟨e⟩ が例の最初の列に残っているにもかかわらず、かつてはこの書記素が示していたシュワーは上に述べたとおり時と共に消失してしまった。この書記素を**黙字の e** (mute e) と呼ぶことにする。強勢のある単音節語に黙字の e があれば、先行する母音書記素は開放母音の音価を表す。これらの書記素は /eɪ/, /i:/, /aɪ/, /ou/, /ju:/ と呼ばれていて、開放母音の音価と同じ名前であることに注目しなさい。

強勢のある単音節語に黙字の e がなければ、先行する母音書記素は抑止母